

令和4年度第2回  
射水市高齢者保健福祉・介護保険事業計画推進委員会会議録

1 日 時 令和4年11月8日（火）午後2時30分～午後4時00分

2 場 所 射水市役所（本庁舎）会議室302・303

3 出席者

(1) 推進委員会委員 14名

宮嶋会長、新鞍副会長、野澤委員、櫻田委員、野田委員、中川委員、義本委員、  
渋谷委員、小林委員、寺林委員、稲垣委員、岡田委員、砂原委員、篠田委員

(2) 事務局 13名

小見福祉保健部長、轟福祉保健部次長、山口地域福祉課長、菓子介護保険課長、  
高岡保健センター所長、竹島地域福祉課課長補佐、長谷川地域福祉課課長補佐、  
浅井地域福祉課地域ケア推進係長、田中介護保険課課長補佐、坂井介護保険課  
介護保険管理係長、坂本保健センター健康増進係長、熊藤介護保険課介護保険  
管理係主任、井村地域福祉課福祉政策係主事

---

[会議次第]

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) 射水市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画の策定について

ア 計画策定に向けたスケジュール（案）について

イ アンケート調査の実施について

5 閉会

[会議録]

事務局 議題（１）射水市高齢者保健福祉計画・第９期介護保険事業計画の策定について説明。

会 長 コロナが収まらない中、一方で福祉の充実が叫ばれている。高齢者保健福祉計画・第８期介護保険事業計画は、３年計画の２年目である。現計画の進捗状況も大切であるが、次年度からは第９期計画の策定に入っていくことになる。事務局からスケジュール、各種調査の説明があるので、皆様方には、それぞれの立場から日頃考えている事、感じている事、また調査に含めてほしい事など忌憚のないご意見をいただきたい。福祉の計画では、高齢者、障がい者などたくさんの方が作られている。ただ、計画、制度、サービスが充実しても、「それを担っていく人」が大きな問題となる。高齢者部分については皆様ご存じの通り、介護人材が本当に不足している。人材がいない限りどれだけ立派な計画、サービスも「絵にかいた餅」になってしまう。短期大学でも介護福祉士を養成している。今年度は、射水市との包括連携協定で、介護人材確保のための取り組みを学生とともに企画、実施を計画している。中高校生や求職中の方を対象に、事業所での実習体験をしていただいて介護の魅力を知っていただき、射水市の高齢者福祉の推進に寄与できればと思っている。

事務局 議題（１）射水市高齢者保健福祉計画第９期介護保険事業計画の策定について説明。

会 長 今後のスケジュール、調査の内容等についてご質問、ご意見等あればお願いしたい。調査項目については国の方で示されているものは全国统一なので、射水市独自の項目で何かご意見ご質問はないか。

委 員 アンケートの回収率はどのくらいを想定されているのか。

事務局 第８期計画の際のアンケートの回答率は、「日常生活ニーズ調査」の回答率が74.7%である。他の市町村との比較では、富山市が72.9%、高岡市が70%、一番回収率が高いのは、砺波地方介護保険組合で81.7%である。「在宅介護実態調査」は、「日常生活ニーズ調査」の郵送調査と違い、認定調査員が直接お宅に訪問して調査を行うので、600人に到達し回答率100%になるまで調査を行う予定である。「日常生活ニーズ調査」は郵送調査で、期間を12月5日から12月19日まで2週間を調査期間として検討している。

会 長 郵送調査での回答率74%はとても高い。みな関心があって7割以上の方が

回答されていると思う。

委員 「日常生活ニーズ調査」の問11は非常に興味深い。「人生の最終段階の過ごし方」については、厚労省の調査が一般的で、それに基づいて在宅医療について患者さんに説明することが多いのだが、この市独自の調査項目について、非常に興味深く思った。質問ではなく意見である。内容は、前回の平成29年の厚労省の内容に準じたものだと思うが、質問数もちょうどよいのではないかと思う。

会長 私が家族を介護した際も、この調査があればいいと思った。自分の母親は施設に入っているが、急に体調が悪くなった時、施設から「今後どのような方針でいけますか」と聞かれたことがある。母親自身は認知症で答えられないので、家族としては非常に悩む。命を延ばすことが良いのか、本人らしく自由に人生を全うすればいいのかすごく悩む。「在宅介護実態調査」でも質問項目として検討してほしい。

委員 本人が上手く自分の意思を伝えられなくなった時、本人の意思を代弁する方がいかに考えるかが大事なので、確かに盛り込むのも一つの方法かもしれない。

委員 すごく回答率が良いと思った。きちんとした調査のうで計画の方向性が出れば良いと思う。来年の今くらいには、介護保険料が見直しされるのか、そのままなのか判断する時期が来ると思う。ここ3期（9年）ほどずっと据え置きになっている。「サービスは受けたいが保険料は払いたくない」という本音の中で、どこを落としどころにするかは非常に悩ましいと思いながら、いろいろな設問を見ていた。これだけ高齢化率が上がり、施設も建っている中で介護保険料はそろそろ（値上げ）ではないかと個人的には思っている。団塊の世代が2025年には後期高齢者になることは前から言われており、市としてはどのようなことに配慮、考えているのかお聞きしたい。

事務局 介護保険料については今の段階では詳しい説明はできない。来年一年間をかけて委員の皆様にもお諮りしながら、また、他市の状況にも注視しながら決定したい。国では、第9期計画では「高所得者の保険料の値上げ」、「高所得者の負担割合の拡大」とか、大胆な改革も審議されている。国の状況もしっかりと把握したうえで委員の皆様と一緒に検討を進めてまいりたい。

委員 保険料に関しては慎重にお願いしたい。

委員 アンケート調査をするにあたって、本人が書くものと家族が書くものがある

と思うが、本人が一人で書いた回答と家族が見ている状態で書いた回答では違いが出てくると思う。それらをどう把握するのか。「一番最後をどこで過ごしたか」の問いでは、「自分の暮らしてきたところで生活していきたい」と答える方が多いと思うが、介護している家族からすると「自宅で過ごすことが可能なか」「サービスが自分の住んでいるところにあるのか」が重要になってくる。「最後まで自分の家で暮らしたい」人がそうできるよう考えたい。

会 長 ずっと家で暮らせないのは、「家族の理由」なのか、「本人」の理由なのか、そこが分かれば、在宅で暮らせる時間はもっと長くなる。施策、サービスも変わってくると思うのでその辺りも検討してほしい。

委 員 個別面接調査を行う認定調査員はどういった人たちかお聞きしたい。「人生の最終段階における過ごし方」の設問はとても良いと私自身も感じる。自分自身も高齢者なので、他の人たちがどういった考え方を持っているか、調査結果に興味がある。問11のその他の事由記載欄は、いろんな考え方があるので、もう少し枠を大きくしたら良いと思う。

事務局 認定調査員は、区分変更や更新申請の際に、体の状態を把握するために訪問調査する。調査と併せてアンケートを実施する。市直営の調査員が介護保険課に7名、それ以外に市内の居宅介護支援事業所11か所の調査員にもお願いし調査を進めていく。

委 員 調査票の字がとても大きくわかりやすい。記入しやすいフォーマットだと感じた。市独自項目は、回答の選択肢も配慮され、サービスや制度等の周知も兼ね、今後、自分がどのように最後段階を迎えればいいのか啓蒙も兼ねている良い内容だと感じた。

委 員 「日常生活ニーズ調査」のアンケート項目を見て、「介護を受ける方」も「介護する方」も、日常生活には大変なことがたくさんあると感じた。その中で地域の商工業者が何かお手伝いできればいいと思った。地元の商工業者をつながりを持つことで利便性のよいサービスに繋がればいいと思う。アンケートの調査結果を商工業者の方にも確認していただき、地域の実情を知ってもらうことで新たなサービスが発信できればいいと感じた。

会 長 地元での日常生活を続けるためには、商工業界が担える部分がたくさんあると思う。商工業者の方々の理解と協力が必要になるので、うまく連携を図りたいと思う。

委員 アンケートの設問内容が上手く書けていると感じたが、サービスを利用する際の料金的な事が全然書いていない。一人暮らしで国民年金の人の手取りは5万円くらいだと思う。一人暮らしで認知症がひどくなり、施設に入りたくても入れない、子どもが近くにいないなど、苦労している人がたくさんいると聞く。料金的なことが一番大切だと思うが書いてない。一軒の家の中で長男と一緒に暮らしているのに、利用料金を安くするために世帯を別々にするなど苦労していると聞く。

事務局 サービスを利用する人の世帯収入や、どこの事業所のどのようなサービスを使うかによっても利用料金は違ってくる。利用する人が負担とならない形でサービスを使えるよう、根本的な部分での解決というか、介護保険制度を持続させるための計画という意味でのアンケートとなっている。個々の事業所のサービスの利用料については、別の機会に説明させていただきたい。今回のアンケートは、計画内容について、全ての方が介護サービスを安心して、満足して利用するためのアンケートとご理解いただきたい。

会長 介護保険では、要介護度ごとに利用限度額が設定されている。限度額まで使っている人もいれば、限度額まで使っていない人もいる。その設問があってもいいと思う。なぜ使っていないのか、経済的問題なのか、サービスの問題なのかの分析も必要だと思う。

委員 5,000人を対象にするとのことだが、対象者の選定方法はどのように行っているのか。無作為なのか、振興会別なのか。地区によって住んでいる人の生活実態も違うと思うが、万遍なく捉えられるようにしているのか。もう一つ、調査された情報はどこまで開示、共有されるのか。例えば地域の社会福祉協議会や地域包括支援センター、各地域の振興会長等と共有できるのか。アンケート結果に基づいて社協や長寿会等と連携できるものなのか。振興会として協力できるものがあれば会合の時に提案し、より良い地域にしたいと思う。

事務局 日常生活圏域ごとの高齢者の割合と同じになるよう5,000人を抽出する「層下無作為抽出」で行う。アンケート調査結果については、クロス集計で分析し地域の状況を把握する。結果については、様々な団体に活用できるよう開示していく予定である。

委員 5,000人を抽出する方法は。

事務局 65歳以上の高齢者を地域ごとの人数で按分して行う。

委員 ケアマネジャーとしての意見だが、「人生の最終段階における過ごし方」という設問の中に、「医療療養についてご家族や医療関係者と話し合ったことがありますか」という選択肢がある。「子供たちに世話になりたくないから元気でいたい」「子供たちが遠くに行ってしまうと身寄りが無いから元気でいたい」この二つをよく耳にする。設問をきっかけに、人生の最終段階における過ごし方について話しやすくなると思う。

会長 普段から話さない内容なので、きっかけがあることは大事だと思う。

委員 このアンケートを見た時、是非自分に届いてほしいと思った。私も終活に入っている。こういうアンケートに自分の思いを書きたいと思う。他の委員からも意見があったが、文字が大きい。私も目が不自由になってきたので大きい文字が本当にありがたい。また、「在宅介護実態調査」は認定調査員が行うとのことで、配慮されていると感じた。

委員 資料4について、4ページの(6)の設問ですが、12番、「せきつい損傷」と書いてあるのですが、これでいいのですか。「せきずい」ではないのですか。麻痺になるのは脊椎ではなく脊髄ではないか。また問13、17ページの、高齢者のインターネットの活用については、新しい切り口で面白いなと思った。(3)のところの設問が「ニュース等の情報発信」とか「家族や知人との連絡とか情報の発信」となっているが、よくインターネットをしている世代に聞くのであれば、具体的にSNSとか動画とかブログとかメール、ゲームとかの表現が良いと思う。

委員 よく検討された調査票になっていると思った。調査票は住民の意見を集約したものになるので、生活を考える上での根拠になる重要なデータだと思う。回収率が非常に高いので大丈夫だと思うが、一人でも多くの方に協力してもらえるように進めてほしい。「人生の最終段階における過ごし方」について、在宅の方にも実施してはどうかとのことだが、すでに介護を受けている方達にこの質問をするのは心苦しいかなと思う。「人生会議」という言葉があるが、ここまで詳しくせず、今後の希望を聞くのも一つの方法だと思う。

会長 個人的意見だが、自分の親が認知症になる前に(親の考えを)知りたかった。できれば回収したアンケートのコピーを、家族に渡してもいいのではないかと。一人暮らしの方は無理だが、同居家族がいる方には、自分の親がどんなふうに考えているのかを知ってもらえるのも良いと思った。インターネットの設問は、これからの高齢者福祉でも考えていかなければいけないので良い質問だと思う。一方、インターネットを市としてどのように活用するのか見えてこない部分が

ある。これからの介護とインターネット、どんな風に活用できるかを知るための設問を考えた方がいいと思った。高齢者がどこから情報を得ているか、市の広報や新聞、市のホームページ、ケーブルテレビ、インターネット、どこからどのくらいの割合で福祉の情報を得ているかを設問として入れておけば、高齢者に対する情報提供に何が有効か分かるので、インターネットを使って何を知りたいのか、何をしたいのかも設問に含めれば良いと思う。独自項目が前回に比べて増えていが、回収率が高くなって、今度の計画に反映できるようになればいいと思う。

委員 「日常生活ニーズ調査」の設問の中の5ページ、「(9) 現在の場所で住んでいて困っていることはありますか」の選択肢に「商店がない」とか「病院がない」はあるが「金融機関がない」の選択肢が無い。金融機関の統廃合により、高齢者が自分の地域でお金の出し入れをできなくなったと聞く。若い人はコンビニで簡単におろせるし、スマート決済もできるが、高齢者のお金の出し入れが問題である。四国の方では、年金支給日になるとバスでお金をおろしに行っている。「金融機関が無い」という設問を入れても良いと思う。もう一つ、最後のページ18ページの問14の設問の書き方として「家族の介護負担の軽減」とあるが、介護負担は「お金」なのか、「時間」なのか、「体力」なのか、「情報」なのかが分からない。4番の低所得者の経済的援助とあるが、低所得者とはどのような人を指すか一般の方は分からないと思う。もう一つ、12番の「訪問介護」と「訪問看護」の違いも分からないと思う。ここで何か説明があった方が答えやすいのではないか。在宅サービスを考える際には大事な視点と思う。

会長 生活していくうえで困りごとはたくさんある。追加の選択肢があっても良いと思う。

委員 サービスの名称について、確かに介護保険を利用していないなら、言葉として実感が持てない可能性があるが、これは介護保険を利用している方を対象にしたアンケートであり、知っていることが前提の質問なので大丈夫だと思う。

委員 私は昭和23年生まれで、私たちの将来についてのアンケートだと思った。現在27ある地域振興会のうち26で支え合いネットワーク事業が展開され、その中には包括支援センターの方も入り、社協も入り、情報はいろいろ提供されていると感じている。利用料金などいろいろあるが、あくまでこれはアンケートであって詳細については個人個人の問題であると思う。私はこの間、スマホ教室でキャッシュレス決済を習いPAYPAYが使えるようになった。市から様々な情報が私のパソコンに届き本当にありがたい。私も支え合いネットワークでカフェを開いて、そこに集まるお年寄りに情報を流している。アンケー

ト項目についてはこれで良いと思う。

会 長 当事者の方がそう言われるのであれば大丈夫だと思う。たくさんご意見ご質問いただいた。事務局は今日の質問、意見を踏まえて、調査を実施してほしい。これをもって委員会を閉会する。